
QA18 既に実施した調査でのう胞・結節が認められた子供について、東京電力福島第一原子力発電所事故との関係はあるのですか。

県民健康調査甲状腺検査の先行検査では、約半数の方にのう胞・結節等の所見が認められましたが、これらは放射線によるものではなく、超音波検査を行うことで、自然発症のものが小さい段階で発見されたもの（スクリーニング効果とも呼ばれる）と考えられます。B判定やC判定は、二次検査での精密な検査をお勧めするものであり、B判定やC判定の全てが強く「がん」を疑うものというわけではありません。

先行検査で見つかった甲状腺がんについては、

- ・被ばくリスクが高いといわれる年齢の低い方の発症が少ない
- ・現時点では、浜通り、中通り、会津の甲状腺がんの割合に地域差が見られていない
- ・福島での甲状腺被ばく線量がチェルノブイリと比べて低いと推定されている

等の理由から、現段階で見つかっている甲状腺がんは、放射線の影響は考えにくいと評価されています。しかし、低線量の放射線の影響をみるためには、長期間経過を見守る必要があります。今後も健康管理のために継続して甲状腺検査を受診いただくことをお勧めします。

統一的な基礎資料の関連項目

下巻 第10章 173 ページ「甲状腺検査 先行検査と他県調査の比較」

出典：福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センターウェブサイトより作成

出典の公開日：平成27年3月31日

本資料への収録日：平成27年3月31日